R&Dフェーズ｜開発　**実用化時期**｜FY26-

Mehr Licht!
More Photonics for Intelligence

#C15

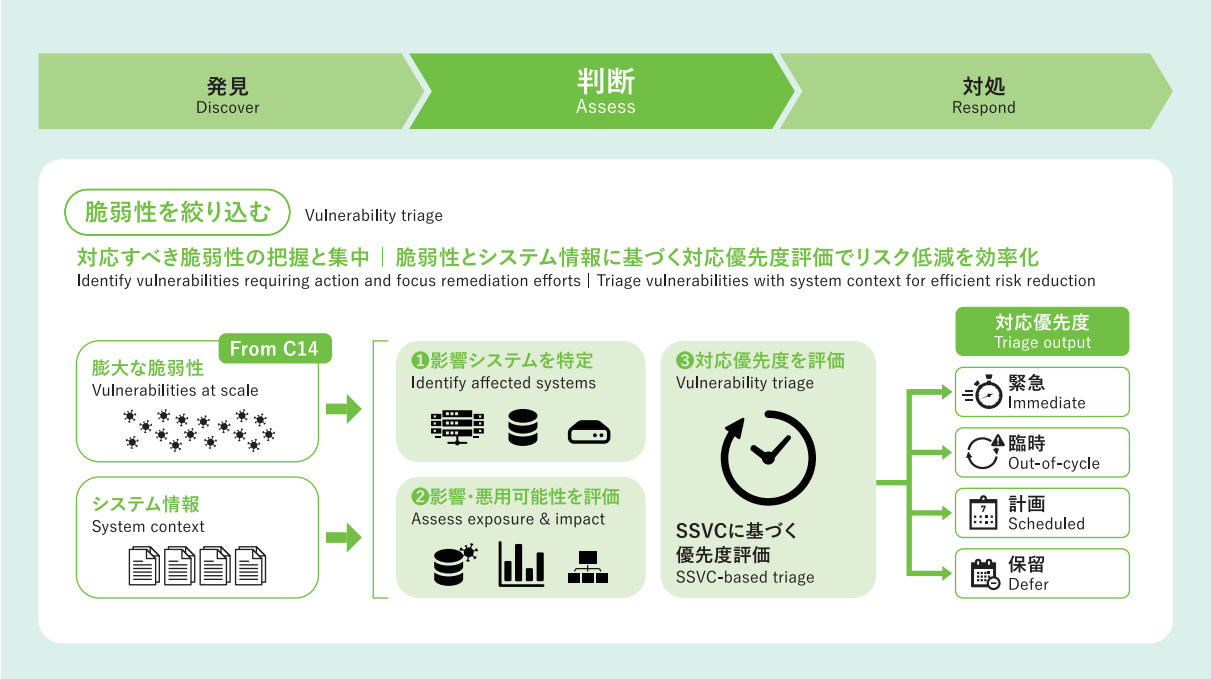
#サイバーセキュリティ#リスクマネジメント#安心・安全

システム情報に基づく脆弱性優先度評価技術

膨大な脆弱性の対応優先度をAIが自動判定し、脆弱性対応の効率化とガバナンス強化を実現します

技術課題・ゴール

フロンティアAIにより膨大な脆弱性が発見される時代において、専門家の判断を要していた脆弱性の対応優先度を完全自動で判定し、迅速な脆弱性対応を支援します。従来技術では難しかったネットワークの公開状況やシステムの重要度などの評価を、AIを用いて自動化します。



技術ポイント

要素技術

・脆弱性情報とシステム情報を自動的に突合し脆弱性の対応優先度の判定までを完全自動化
・脆弱性情報とシステム情報からAIを活用した対応優先度の自動判定

市中技術差異点

・脆弱性対応指標であるSSVCに基づいた4段階の脆弱性の対応優先度を提示
・従来技術では難しかった、システムがインターネットからアクセスできるかどうかやシステムの重要度を全自動で判定

適用ビジネス/ユースケース

情報技術

決済・個人情報などの重要情報を扱うシステムや、法令に沿ったセキュリティ対策が求められるシステムにおいて、脆弱性情報とシステム情報（BCP、ネットワーク構成、ソフトウェア構成等）からAIが脆弱性の対応優先度を自動判定します。システムへの影響把握と対応を迅速化し、ガバナンスを適正化・効率化します。

出展組織

NTT株式会社 社会情報研究所
株式会社NTTデータ 公共・社会基盤分野